

地方独立行政法人市立大津市民病院
令和2年度第1四半期報告書

令和2年 7月31日報告 地方独立行政法人市立大津市民病院

令和2年 9月 3日確認 大 津 市

目 次

I 全体的な分析・確認結果（法人の自己分析と市の確認結果）

- 1 年度計画に掲げる目標指標に関する目標を達成するための取組
- 2 事業年度における四半期ごとの財務情報等に関する目標を達成するための取組

II 項目別での分析・確認結果（法人の自己分析と市の確認結果）

- 1 年度計画に掲げる目標指標に関する自己分析・確認結果まとめ
- 2 事業年度における四半期ごとの財務情報等に関する自己分析・確認結果まとめ
 - (1) 年度計画で掲げる収支計画のうち次に掲げる区分の金額と進捗状況
 - (2) 事業年度における四半期ごとの財務情報のうち資金繰り等に関すること
 - (3) 事業年度における四半期ごとのその他の情報のうち職員体制等に関すること
 - (4) その他、法人経営において特筆すべきこと

I 全体的な分析・確認結果（法人の自己分析と市の確認結果）

1 年度計画に掲げる目標指標に関する目標を達成するための取組

<p>〈法人の自己分析〉</p> <p>第1四半期は、新型コロナウイルス感染症に対する病院としての使命を果たしながら、目標と向き合う非常に厳しい環境下での病院運営となった。3月より健診センターの新規予約を停止、4月初旬より耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、消化器内視鏡検査での診療制限を行った。4月中旬にはERが新型コロナウイルス感染症対応中心となり、下旬の感染拡大期には入院制限や手術制限を行いながら、来院者トリアージを行うなど院内感染の防止も徹底した。また、新型コロナウイルス感染症病床確保のため、3月より継続してICUでは新型コロナウイルス感染症受入体制を維持し、4月には緩和ケア病棟20床、8B病棟50床を休床した。これら新型コロナウイルス感染症対応による診療体制の縮小と、受診控えによる減収の影響は大きく、感染が小康状態となった5月下旬よりER受け入れ患者の緩和と6月から健診センターを再稼働させたが四半期目標の達成には至らなかった。</p> <p>年度目標達成に向けての今後の取り組みとして、入院患者数の減少が最大の減収要因となっていることから、新型コロナウイルス感染症の影響を軽減するための感染症外来の設置検討と入退院センターの強化準備を行い、救急医療提供体制維持による重症患者の受け入れと病床利用率の改善し、入院及び外来収益を確保する。さらに、救急・ICUの体制強化と看護職員夜間16：1体制加算取得について院内各部署との調整を進め、年度内での増収を図る。</p>	<p>〈市の確認結果〉</p> <p>■第1四半期の総評として年度計画の達成状況は、新型コロナウイルス感染症の影響で判断できないが、年度計画に掲げる多くの指標において第1四半期の目標値を下回っている。</p> <p>■新型コロナウイルス感染症の対応では、公立病院としての役割を積極的に担い、職員一丸となって医療提供に取り組んでいることを評価する。</p> <p>■収益が減少した要因は丁寧に分析すること。新型コロナウイルス感染症対応による減収分、一般的に言われる受診控えによる減収分、それ以外の要因からの減収分がそれぞれ区分できるようにすること。</p> <p>■今後は新型コロナウイルス感染症への適切な対応に加え、少しでも収支が改善するよう地道な取り組みを進めること。</p>
--	---

2 事業年度における四半期ごとの財務情報等に関する目標を達成するための取組

<p>〈法人の自己分析〉</p> <p>財務情報の目標達成に向けて、第1四半期は前年同期比および計画比で非常に厳しい状況となっている。新型コロナウイルス感染症による影響で医業収益は大幅に減少し、前年同期比で20%以上の減収となっている。医業費用の経費もそれに伴い低下し目標達成はしたものの営業損益としては悪化しており、非常に厳しい状況となっている。</p> <p>資金面では、第1四半期末での現預金保有状況としては1,415百万円で、今後の運営費負担金の入金を踏まえた年度末資金残高は339百万円となる見込みである。同感染症による収入の減少の資金繰りへの影響を最小限に留めるため、国等からの交付金等を最大限に利用し、設備および組織体制を整備する。</p>	<p>〈市の確認結果〉</p> <p>■財務情報等に関する目標達成状況は、新型コロナウイルス感染症の影響で判断できないが、年度目標に対して、損益ベースでは、前年同期比で下振れしており、計画比では乖離している。</p> <p>■また、法人の自己分析にあるように医業収益が大幅に減少しているものの、医業費用の減少幅が少ないことも財務状況の悪化に影響したと考える。</p> <p>■資金の見通しも厳しいものと想定されるが、コロナ禍であってもできる取組を見つけて資金繰りへの影響を最小限に留める努力をすること。</p>
---	---

II 項目別での分析・確認結果（法人の自己分析と市の確認結果）

1 年度計画に掲げる目標指標に関する自己分析・確認結果まとめ（目標指標の実績及び達成状況は次ページの「令和2年度の第1四半期業務実績に関する小項目評価における指標一覧」を参照）

<p>〈法人の自己分析〉</p> <p>第1四半期は、目標達成した指標が4項目のみであった。化学療法件数については新型コロナ感染症の影響で4月5月と減少したものの目標を達成した。紹介率及び逆紹介率についてはこれまでと同様に高い水準を維持し目標を達成しているが、ともに一般患者受け入れが減少したことによる上昇分も含まれている。その他項目においては目標未達となっており、同感染症による通常救急患者受け入れの停止、感染症病床の確保による入院体制の縮小、受診控えが発生したことで入院および外来患者数が前年同期比28%減少となっており、影響が大きく、各指標達成が非常に困難なものとなった。また、受診控えによる外来患者の減少は、感染症の影響が少なかった化学療法件数と連動して外来診療単価を上昇させる結果となった。</p> <p>これら感染症による影響を軽減するため、通常救急診療体制を維持するための感染症外来の設置検討を行うとともに、病床利用率改善のための入退院センターの強化準備を行った。</p>	<p>〈市の確認結果〉</p> <p>■目標を達成した指標が4つであり、過去最も少ない達成状況となっている。</p> <p>■目標を達成した指標の4つのうち2つの項目で前年同期比プラスとなっているが、法人の自己評価にあるとおり、受診控えによる外来患者の減少が、感染症の影響が少なかった化学療法件数と連動して外来診療単価を押し上げたものである。</p> <p>■今後も新型コロナウイルス感染症による影響を受けやすい環境下にあることから、院内感染が発生しないように十分な体制を構築すること。</p>
---	---

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置													
	1	経営の効率化											
	2	管理体制の強化											
		(1) 経営体制の強化										定性	
		(2) 内部統制の強化										定性	
		(3) コンプライアンスの徹底										定性	
	3	優れた人材の確保と意識改革											
		(1) 法人職員の確保										定性	
		(2) 職員の意識改革とモチベーションの向上										定性	
		(3) 研修体制の強化										定性	
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置													
	1	単年度資金収支ゼロ以上並びに経常収支比率及び医業収支比率100パーセント以上を達成するために講じる施策											
17		医業収支比率 ※1	93.6%	99.9%	97.1%	-	100%以上	-	-	-	-	↑	半期ごと確認指標
18		経常収支比率 ※2	90.0%	102.7%	100.4%	-	100%以上	-	-	-	-	↑	半期ごと確認指標
		(1) 収入及び収益の向上策											
19		入院診療単価	57,954円	59,053円	58,001円	57,784円	58,500円	58,500円	56,495円	△2,005円	96.6%	↑	
20		外来診療単価	13,997円	15,294円	15,312円	14,988円	12,000円	12,000円	16,469円	4,469円	137.2%	↑☆	
21		手術件数	3,888件	3,635件	3,674件	971件	4,570件	1,142件	484件	△658件	42.4%	↑	※
22		病床稼働率	88.4%	87.9%	85.0%	86.7%	82.0%	82.0%	64.9%	△17.1P	79.1%	↑	
23		入院患者数	126,868人	126,084人	120,478人	31,011人	133,225人	33,306人	23,084人	△10,222人	69.3%	↑	※
24		外来患者数	218,401人	210,287人	198,409人	51,627人	228,420人	57,105人	37,473人	△19,632人	65.6%	↑	※
25		平均在院日数	12.6日	12.6日	13.1日	12.7日	11.0日	11.0日	15.2日	4.2日	72.4%	↑	
26		DPCⅡ期間以内患者割合	64.5%	58.7%	57.9%	59.9%	70.0%	70.0%	52.2%	△17.8P	74.6%	↑	
27		新入院患者数	9,879人	9,293人	8,533人	2,240人	10,952人	2,738人	1,413人	△1,325人	51.6%	↑	※
28		ICU稼働率	114.6%	114.4%	107.7%	109.5%	100%以上	100.0%	83.5%	△16.5P	83.5%	↑	
		(2) 支出及び費用の削減策											
29		人件費比率(職員給与費比率) ※3	57.7%	54.7%	57.7%	-	55.0%以下	-	-	-	-	↓	半期ごと確認指標
30		材料費比率 ※4	22.9%	23.0%	22.9%	-	20.0%	-	-	-	-	↓	半期ごと確認指標
31		後発医薬品指数	89.3%	91.6%	94.0%	-	80%以上	-	-	-	-	↑	半期ごと確認指標
32		委託費比率 ※5	11.0%	11.7%	12.1%	-	11.0%	-	-	-	-	↓	半期ごと確認指標
	2	運営費負担金											定性
	3	計画期間内の収支見通し											定性
第5 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置													
		(1) 津市民病院附属看護専門学校の在り方について											平成30年度以降新規学生募集停止
		(2) 介護老人保健施設ケアセンターおおつの在り方について											平成29年度末事業廃止

※1 算出根拠 医業収益/医業費用

※2 算出根拠 (営業収益+営業外収益) / (営業費用+営業外費用)

※3 算出根拠 医業費用の給与費(退職給付費用除く)/医業収益

※4 算出根拠 材料費/医業収益

※5 算出根拠 医業費用及び一般管理費の委託費/医業収益

2 事業年度における四半期ごとの財務情報等に関する自己分析・確認結果まとめ

(1) 年度計画で掲げる収支計画のうち次に掲げる区分の金額と進捗状況(金額は百万円、達成状況は「○」が達成、「×」が未達成。「↑」又は「↓」は達成の方向)

No.	主な項目	R01年度 実績※1	R02年度 計画目標 (A)	第1四半期 (4-6月期) 目標 (B)	第1四半期 (4-6月期) 実績 (C)	達成状況 (C/B) 損益 (C-B)	R01年度 (4-6月期) 実績	/ 四半期 (4-〇月期) 目標 (D)	/ 四半期 (4-〇月期) 実績 (E)	達成状況 (E/D)	年度実績 見込み [F]	達成見込み 状況 [F/A]	備考
1	医業収益のうち入院収益	6,926	7,794	1,910	1,244	↑× 65.1%	1,689	-	-	↑ 000.0%	-	↑ 000.0%	
2	医業収益のうち外来収益	3,051	2,741	663	612	↑× 92.3%	775	-	-	↑ 000.0%	-	↑ 000.0%	
3	医業収益のうちNo. 1, 2以外	398	405	101	37	↑× 36.6%	89	-	-	↑ 000.0%	-	↑ 000.0%	
4	医業費用のうち給与費	6,209	6,138	1,535	1,546	↓× 100.7%	1,579	-	-	↓ 000.0%	-	↓ 000.0%	
5	医業費用のうち材料費	2,373	2,103	526	498	↓○ 94.7%	616	-	-	↓ 000.0%	-	↓ 000.0%	
6	医業費用のうち経費(光熱水費)	224	254	64	48	↓○ 75.6%	55	-	-	↓ 000.0%	-	↓ 000.0%	
7	医業費用のうち経費(修繕費)	37	38	10	5	↓○ 52.6%	4	-	-	↓ 000.0%	-	↓ 000.0%	
8	医業費用のうち経費(委託料)	777	835	183	160	↓○ 87.5%	160	-	-	↓ 000.0%	-	↓ 000.0%	
9	医業費用のうち経費 (No. 6~8以外)	280	127	31	96	↓× 308.3%	77	-	-	↓ 000.0%	-	↓ 000.0%	
10	医業費用のうち減価償却費	773	590	148	162	↓× 109.5%	191	-	-	↓ 000.0%	-	↓ 000.0%	
11	医業収益※2	10,375	10,940	2,674	1,893	↑× 70.8%	2,553	-	-	000.0%	-	000.0%	
12	医業費用※3	10,691	10,109	2,502	2,518	↓× 100.6%	2,687	-	-	000.0%	-	000.0%	
13	医業損益 (No.12-No.11)	△316	831	172	△625	↑× △797	△134	-	-	↑ 000.0%	-	↑ 000.0%	
14	営業損益 (負担金含む)	421	1,654	586	△438	↑× △1,024	98	-	-	↑ 000.0%	-	↑ 000.0%	
15	営業損益 (負担金除く)	△1,087	128	39	△791	↑× △830	△308	-	-	↑ 000.0%	-	↑ 000.0%	
16	経常損益 (負担金含む)	54	1,914	487	△328	↑× △815	1	-	-	↑ 000.0%	-	↑ 000.0%	
17	経常損益 (負担金除く)	△1,571	△379	△86	△893	↑× △807	△434	-	-	↑ 000.0%	-	↑ 000.0%	
<p>〈法人の自己分析〉</p> <p>第1四半期、収益では入院、外来、その他のすべての項目において目標未達となり、費用では医業費用の材料費、経費において目標達成している。新型コロナウイルス感染症対応に伴う救急機能や病床の縮小と手術延期、受診控えによる患者数減少による収益は前年同期比74.2%となっており、同感染症以外の影響を補正しても20%以上の収益減少を受けている。</p> <p>同感染症対応とともに、発熱外来の設置やハイケアユニット入院医療管理料1をはじめとした、臨時的取り扱いも含めた収入の確保を図り約21百万円を増収、外来についても呼吸器内科や内科で診療単価が増え増収(呼吸器内科:約16百万円、内科:約3百万円)し、感染症が小康状態となった5月下旬より診療体制の緩和や6月からの健診センターの再開を行ったが、病院全体としての収益は目標比70.8%と達成は厳しい状況であった。</p> <p>また、経営面での同感染症の影響を軽減するため、効率的な病床運用を行うための入退院センターの強化準備と感染症外来の設置検討を行った。</p>								<p>〈市の確認結果〉</p> <p>■年度計画に掲げる目標指標全ての項目で目標未達となった。</p> <p>■医業費用は前年同期比に比べて7%程度減少したが、医業収益は前年同期比で25%程度減少しており、収益の減少に比べ、費用の抑制は限定的であった。</p> <p>■経常損益(負担金含む)が、対前年、対計画比で乖離していることから、厳しい経営状況下であり、今後はコロナ禍であってもできる取組を早期に検討、実施して少しでも収支バランスをとるよう努めること。</p>					

※1 病院事業のみ

※2 医業収益の内訳(入院収益+外来収益+その他)

※3 医業費用の内訳(給与費+材料費+経費+減価償却費+研究研修費)

(2) 事業年度における四半期ごとの財務情報のうち資金繰り等に関すること

<p>〈資金繰りの状況等〉</p> <p>令和2年度第1四半期末での現預金保有状況は1,415百万円で、うち短期借入金無し(前年同期短期借入金1,664百万円)。短期借入金を除く実質の資金は、期首から△467百万円、前年同期比で+3,037百万円である。</p> <p>9月、3月の移行前地方債の償還時、12月の賞与支払い時に大津市から運営費負担金が入金(9月・12月566百万円、3月565百万円)されるが、新型コロナウイルスの影響により資金繰りは厳しく、年度末資金残高339百万円(期首から△1,543百万円)となる見込みである。</p> <p style="text-align: center;">令和2年度資金増減見込み(第1四半期末現在) (単位:百万円)</p> <p>中期計画: +1,728 → △1,543 (△3,271)</p> <p>※主な要因</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">計画</th> <th style="text-align: center;">見込</th> <th style="text-align: center;">差異</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院収益</td> <td style="text-align: right;">7,794</td> <td style="text-align: right;">5,565</td> <td style="text-align: right;">(△2,229)</td> </tr> <tr> <td>(入院収益(R1))</td> <td style="text-align: right;">7,098</td> <td style="text-align: right;">5,565</td> <td style="text-align: right;">(△1,533)</td> </tr> <tr> <td>外来収益</td> <td style="text-align: right;">2,741</td> <td style="text-align: right;">2,468</td> <td style="text-align: right;">(△273)</td> </tr> <tr> <td>(外来収益(R1))</td> <td style="text-align: right;">3,085</td> <td style="text-align: right;">2,468</td> <td style="text-align: right;">(△617)</td> </tr> <tr> <td>臨時利益</td> <td style="text-align: right;">106</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">(△106)</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td style="text-align: right;">6,475</td> <td style="text-align: right;">6,706</td> <td style="text-align: right;">(+231)</td> </tr> <tr> <td>経費その他</td> <td style="text-align: right;">1,993</td> <td style="text-align: right;">2,231</td> <td style="text-align: right;">(+238)</td> </tr> <tr> <td>固定資産購入 (長期借入分除く)</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">140</td> <td style="text-align: right;">(+140)</td> </tr> </tbody> </table>		計画	見込	差異	入院収益	7,794	5,565	(△2,229)	(入院収益(R1))	7,098	5,565	(△1,533)	外来収益	2,741	2,468	(△273)	(外来収益(R1))	3,085	2,468	(△617)	臨時利益	106	0	(△106)	人件費	6,475	6,706	(+231)	経費その他	1,993	2,231	(+238)	固定資産購入 (長期借入分除く)	0	140	(+140)	<p>〈法人の自己分析〉</p> <p>令和2年度第1四半期末での現預金保有状況は、資金収支で計画の想定より800百万円減少している。その主な要因は医業収益が780百万円減少したからである。</p> <p>今後も新型コロナウイルスによる影響が続くことを想定すると資金が期首から1,543百万円減少し、年度末資金残高339百万円となることを見込まれる。資金繰り改善のため、国等からの交付金等を最大限活用しつつ、感染症対応による収益減を最小限に抑えるための設備、組織体制を整備していく。</p>	<p>〈市の確認結果〉</p> <p>■医業収益、特に入院収益が減少する中、今後の資金需要を的確に捉え、現預金の確保に努めること。</p>
	計画	見込	差異																																			
入院収益	7,794	5,565	(△2,229)																																			
(入院収益(R1))	7,098	5,565	(△1,533)																																			
外来収益	2,741	2,468	(△273)																																			
(外来収益(R1))	3,085	2,468	(△617)																																			
臨時利益	106	0	(△106)																																			
人件費	6,475	6,706	(+231)																																			
経費その他	1,993	2,231	(+238)																																			
固定資産購入 (長期借入分除く)	0	140	(+140)																																			

(3) 事業年度における四半期ごとのその他の情報のうち職員体制等に関すること

<p>〈職員体制等〉</p> <p>令和2年度第1四半期の職員体制は816人(退職11人、採用者10人)、年度当初比△1人、前年度比(看護学校含む法人全体)△12人、前年度比(病院)△1人である。</p>	<p>〈法人の自己分析〉</p> <p>看護師の業務分担の適正化のため臨床工学技士の配置に努めた。今後、診療報酬制度も見極め、法人として最適な職員体制の確保のため、途中採用を含め、引き続き職員体制の適正管理に努める。</p>	<p>〈市の確認結果〉</p> <p>■適材適所の人員配置はもちろんのこと、厳しい医療提供下であることから、働きがいのある職場となるよう年度を通して体制の見直し等に努めること。</p>
--	--	--

(4) その他、法人経営において特筆すべきこと

<p>〈事業実績等〉</p> <p>○理事会 第1四半期で2回開催(第1回:4月24日、第2回:6月12日) 主な議題:令和元年度決算報告、中期目標期間見込評価等</p> <p>○監事監査 6月19日に監事監査を実施、年度中に期中監査を行い業務遂行上のリスク確認を行う予定をしている。</p>	<p>〈法人の自己分析〉</p> <p>○理事会 新型コロナウイルス感染症に対応して、メール会議での開催やリモートでの会議参加を行い、感染対策を徹底した。 資料を可能な限り事前に送付することで、当日の審議でより効率的な審議を行えるよう努めた。</p> <p>○監事監査 今年度中に期中監査を行い、業務上のリスク確認を行う予定である。</p> <p>○その他 感染症指定医療機関として行政と連携し、新型コロナウイルス感染者を受け入れ治療にあたった。</p>	<p>〈市の確認結果〉</p> <p>■今後も、経営改善にかかる重要案件について十分な審議を尽くし、経営改善に努めること。 ■新型コロナウイルス感染症患者の発生状況に注視し、滋賀県や本市と連携し、適切な対応を行うこと。</p>
--	---	---

